©河北新報社 2009

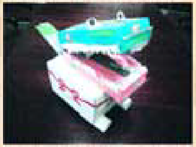
NIE特集

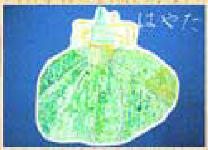
Newspaper In Education

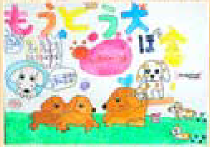
館小

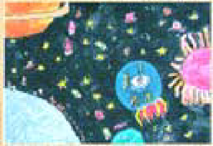
学校名　仙台市立館小学校
所在地　仙台市泉区館7の1の17
電　話　022（376）3139
校　長　白鳥　裕子
児　童　602人

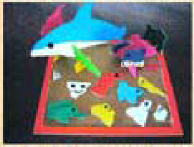
うきうきキャンバス

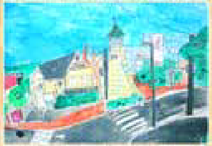

ワ　ニ
1年・青島麻里香


育てたカボチャ
2年・大崎駿太


盲導犬募金ポスター
3年・市瀬悠紗、佐藤実桜


みんなで宇宙大ぼうけん
4年・鈴木優斗


糸のこドライブ
5年・丹野舞


カリヨン
6年・鈴木玲

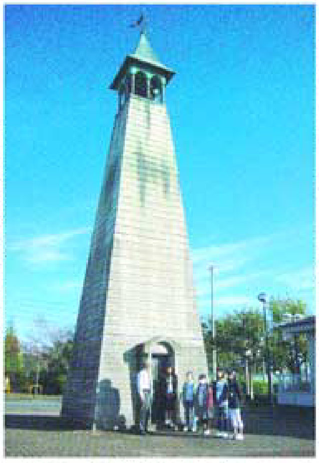
カリヨンの謎を探れ！

季節の移り 鐘告げる

知り隊

私たち館小のすぐ近くに、カリヨンが立っています。カリヨンからは鐘の音で時刻を知らせる音楽が流れています。でも、カリヨンってそもそも何なのか、どのようにして作られたのか、中はどうなっているのか―私たちはそれらのことを知りたくて、館地区の連合町内会会長の小金沢住史さんにお話をうかがいました。

団地住民のシンボル


カリヨンの前で、小金沢さん（左）に取材

カリヨンは、日本語では「組み鐘」と訳され、「発祥の地はオランダ、フランス」と小金沢さんは説明してくれました。外国では人が鍵盤を弾いて鐘を鳴らしますが、日本にはプロの演奏者が少ないので自動演奏のカリヨンが多いそうです。

館のカリヨンはこの団地が始まった1982年に完成しました。「団地を開発した会社が、団地の住民のシンボルになるように作ったんだよ」と話してくれました。外観は、ヨーロッパの教会のイメージです。

高さは15mで、鐘は銅製で8個あります。「みんな、オランダから運ばれてきた」と聞いて驚きました。土台はコンクリート製ですが、石垣のように作られています。

鐘は、曜日ごとに鳴る時間が変わります。月曜日から金曜日には、9時、12時、15時、17時の計4回鳴ります。土曜日、日曜日には、9時から17時まで、1時間おきに鳴ります。曲目は全16曲あり、春、夏、秋、冬と季節ごとに変わります。今の時期は「峠の我が家」「夕焼け小焼け」などの曲が流れています。すべて自動で演奏されます。

カリヨンの中に入ると、ひんやりとして暗く、電気をつけていただきました。鐘を点検するためのはしごや壁には自動演奏の機械が入っている箱が見えました。この機械があの重い鐘を鳴らすのかと思うと不思議な気がしました。

◇　◇

このカリヨンが私たちの町にいつまでも美しい鐘の音を響かせてほしいと思いました。カリヨンは私たちの町の誇りです。

文・鎌田隆成、佐々木稜翔、辻村愛瑞（5年）、佐野あかり、伊藤志歩、金沢みのり（6年）

カリヨンの中に入る

教え隊　全校ソーラン節

春の運動会でのソーラン節

運動会で気持ち一つ

私たちの学校は、開校22年目を迎えました。開校以来行っている行事に「全校ソーラン節」があります。春の運動会のプログラムの一つになっていて、豆絞りの手拭いを頭に絞め、太鼓に合わせて1年生から6年生までがいっしょにソーラン節を踊ります。練習では、6年生が1年生に、5年生が2年生に、4年生が3年生にそれぞれ踊りを教えています。

これからもずっと伝統の全校ソーラン節を続けていきたいと思います。ぜひ一度、館小の運動会を見に来てください。

文・高橋明寛、楢岸亜香理（5年）、大泉星翔、小川茉莉奈（6年）

編集後記

普段、何げなく見ていたカリヨン、何げなく聞いていた鐘の音にいろいろな歴史があるのだなあと感じました。連合町内会会長の小金沢住史さんにはお忙しい中、私たちのためにカリヨンについて教えていただき、ありがとうございました。

カリヨンの中にも初めて入らせていただきました。想像以上に広かったのが印象に残っています。友達には入ったことのある人がいないので、中の様子を教えてあげるとみんなびっくりしていました。

新聞作りをとおして地域のことや、身近なことをあらためて考えさせられました。これからの私たちの生活に生かしていきたいと思いました。

◇編集委員◇鎌田隆成、佐々木稜翔、高橋明寛、楢岸亜香理、大崎唯遥、栗谷絵実、加藤菜梨香、伊藤玲奈、桃谷実咲、辻村愛瑞（5年）、大泉星翔、小川茉莉奈、伊藤志歩、佐野あかり、青島礼圭、金沢みのり（6年）

題字デザイン　加藤菜梨香、伊藤玲奈（5年）

◇指導教員◇松岡晃一郎、渡辺哲夫

言い隊

■ポイ捨てはやめよう■

みなさんの町には、道ばたにごみは落ちていませんか。私の学校では、登校時にごみ拾いをするチリトリーズという活動をしています。

いつも落ちているごみの多さに悲しい気持ちになります。私は、まず一人一人が「ポイ捨てはしない」と心がけ、ごみが落ちていたらその場でコツコツ拾えば、町はきれいになると思います。

このような活動は、地球上のどこでも同じことができると思います。すべての国の人が、このような活動をすればポイ捨てされているごみ問題は解決し、その結果、地球はきれいになっていくと、私は思います。

（5年・大崎唯遥）

■江戸しぐさ 始めたい■

「江戸しぐさ」という言葉を知っていますか。雨の降る中、傘を横に傾けて相手に雨の滴がかからないようにする「傘傾げ」や、狭い道で誰かとすれ違う時、肩を横に引いてぶつからないようにする「肩引き」、席が込んでいる時、少しずつ詰め合って一人でも多くの人が座れるようにする「腰浮かし」と、要するにお互いが気持ちよく過ごすためのちょっとした思いやりのある行動です。

残念なことに、現在このような行動を取っているのは、お年寄りの方だけになりつつあるような気がします。ちょっとした気配りが自分にも大きな喜びとなって返ってくると思います。きょうから始めてみませんか。

（6年・青島礼圭）

毎月第2・4火曜日発行

これまでの掲載校の紙面を河北新報のホームページ（KOLNET）で見ることができます。